(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2017-113130
(P2017-113130A)
(43)公開日　平成29年6月29日(2017.6.29)

(51)Int.Cl.		F I			テーマコード（参考）
A45C 15/00	(2006.01)	A45C	15/00	A	3B045
A45C 1/02	(2006.01)	A45C	1/02	Z	

審査請求 未請求　請求項の数 3　ＯＬ　（全 7 頁）

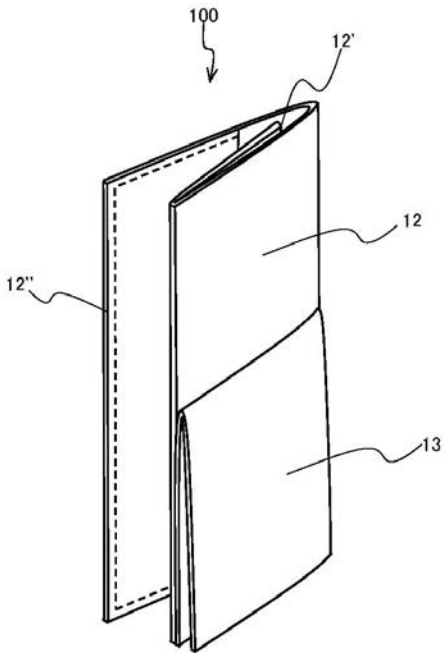
(21)出願番号　特願2015-249593 (P2015-249593)
(22)出願日　平成27年12月22日 (2015.12.22)

(71)出願人　516388366
有限会社伊藤製作所
東京都西東京市北町１－５－８
(74)代理人　100139206
弁理士　戸塚　朋之
(72)発明者　伊藤　勝明
東京都西東京市泉町３－９－５－１

Ｆターム(参考)　3B045 BA01 BA02 BA26 CE10 DA22 DA31 DA44 DA45 FA01 LA10 LB01

(54)【発明の名称】組み付け財布

(57)【要約】
【課題】　紙幣等の財布、硬貨等の小物入れ、磁気カード等のカードケース、キーホルダー、携帯端末機入れ、煙草入れ等が自在に組み付けられる組み付け財布、特に、これらがユーザーにより適宜選択されて着脱自在に組み付けられる組み付け財布を提供する。
【解決手段】　平面視において概略長方形をしており、紙幣が伸びたまま収納可能な長財布（紙幣収納部）１２と、紙幣収納部１２の長手方向の一方の側で紙幣収納部１２の外面に固定され、紙幣収納部１２の長手方向において紙幣収納部１２の半分程度の寸法を有する小物入れ（小物収納部）１３と、を備えるものとする。
【選択図】　図１



【特許請求の範囲】
【請求項１】
財布と小物入れとの組み付け財布であって、
前記財布と小物入れとが固定されているか、あるいは前記財布の少なくとも一方の面の少なくとも１か所及び前記小物入れの少なくとも１か所に着脱用部材が取り付けられ、該着脱部材により前記小物入れが着脱自在に組み付けられてなる組み付け財布。
【請求項２】
前記小物入れが、小銭入れ、カードケース、キーホルダー、携帯用端末機入れ、煙草入れ、携帯灰皿、薬入れ、印鑑入れ、の少なくとも１つであることを特徴とする請求項１に記載の組み付け財布。
【請求項３】
前記着脱用部材が、面ファスナー、ジッパーテープ、スナップボタン、マグネット、ポケット、ベルト、の少なくとも１つであることを特徴とする請求項１または２に記載の組み付け財布。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、紙幣等の財布、硬貨等の小物入れ、磁気カード等のカードケース、キーホルダー、携帯端末機入れ、煙草入れ等が自在に組み付けられる組み付け財布に関し、特に、これらがユーザーにより適宜選択されて着脱自在に組み付けられる組み付け財布に関する。
【背景技術】
【０００２】
今日、いわゆる財布は、長財布、２つ折り財布、小銭入れ、カード用のケース等のように、それぞれが別々なものとして、あるいは長財布や２つ折り財布においては小銭入れやカード入れ等の部分が設けられているものが主流となっている。
【０００３】
しかし、長財布はズボンの後ろポケットに入れると落としやすく、また、上部がポケットからはみ出るため、スリ等の盗難に合うおそれがある。また、２つ折り財布は、ズボンの後ろポケットに入れるのには比較的良いが、一般に上着の内ポケットは深さが深いため、上着の内ポケットに入れると取り出しにくい。
【０００４】
このような問題を解決するため、長財布として閉じるための縦の折りしろ部分と、更に折り重ねて２つ折り財布とするための横の折りしろとを設けた財布が提案されている（下記特許文献１）。これによれば、上着の内ポケットに入れるときには長財布の形状とし、ズボンの後ろポケットに入れるときには２つ折り財布の形状とすることができ、上記問題の解消に寄与する。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００５】
【特許文献１】特開２０１５－１１９９３７号公報
【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００６】
しかしながら、２つ折り財布をズボンの後ろポケットに入れた場合、２つ折り財布がポケット内で斜めに傾き、ポケットの内側に引っ掛かって取り出しに手間を要する場合がある。一方、長財布をズボンの後ろポケットに入れた場合、上記のように落としやすい等の問題はあるものの、長財布の上部がポケットからはみ出るため、その部分をつかんで取り出しやすいというメリットがある。
【０００７】

また、長財布においては、紙幣が折り曲がらずに収納できるという利点があるものの、その長さのために女性用の衣服のポケットやハンドバッグ等に収納し切れず、携帯上の不都合がある。一方、２つ折り財布の場合、男女共に携帯上の不都合はないものの、収納した紙幣が折れ曲がってしまい、使用者によってはこれを嫌うこともある。

【０００８】

本発明は、以上のような諸点を考慮してなされたものであり、ポケットから落ちにくく、ポケットから取り出しやすく、必要に応じて紙幣を伸ばしたまま収納することができる組み付け財布を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【０００９】

上記課題を解決するため、本発明は、財布と小物入れとの組み付け財布であって、

前記財布と小物入れとが固定されているか、あるいは前記財布の少なくとも一方の面の少なくとも１か所及び前記小物入れの少なくとも１か所に着脱用部材が取り付けられ、該着脱用部材により前記小物入れが着脱自在に組み付けられてなる組み付け財布を提供する。

具体的には、例えば、平面視において概略長方形をしており、紙幣が伸びたまま収納可能な長財布と、該長財布の長手方向の一方の側で前記長財布の外面に固定され、前記長財布の長手方向において前記長財布の半分程度の寸法を有する小物入れと、を備えること、

あるいは、

平面視において概略長方形をしており、紙幣が伸びたまま収納可能な長財布と、前記長財布の長手方向の一方の側で前記長財布の外面に着脱自在に取り付けられ、前記長財布の長手方向において前記長財布の半分程度の寸法を有する小物入れと、を備えること等からなる組み付け財布がある。

【００１０】

前記小物入れは、好ましくは、小銭入れ、カードケース、キーホルダー、携帯用端末機入れ、煙草入れ、携帯灰皿、薬入れ、印鑑入れ、の少なくとも１つである。

また、前記着脱用部材は、好ましくは、面ファスナー、ジッパーテープ、スナップボタン、マグネット、ポケット、ベルト、の少なくとも１つである。

【図面の簡単な説明】

【００１１】

【図１】本発明の第１実施形態に係る財布の斜視図である。

【図２】図１に示す第１実施形態の応用例を示し、（Ａ）が斜視図、（Ｂ）が延在部１３′を閉じた状態を示す説明図である。

【図３】本発明の第２実施形態に係る組み付け財布の斜視図である。

【図４】図３に示す第２実施形態の応用例を示す説明図である。

【発明を実施するための形態】

【００１２】

以下、図面を参照しながら本発明の第１実施形態及び第２実施形態について説明する。

【００１３】

（第１実施形態）

図１は本発明の第１実施形態に係る組み付け財布１００の斜視図である。組み付け財布１００は、平面視において概略長方形をした（長）財布、本例では紙幣収納部１２と、紙幣収納部１２の外面に固定された小物入れ、本例では小物収納部１３とを有している。財布１２、小物入れ１３の材料としては、天然皮革、合成皮革、合成樹脂シート、布（織布、不織布、編布）などを用いることができ、財布１２、小物入れ１３共に同一材料製のものを使用してもよいし、それぞれ異なる材料製であってもよい。

【００１４】

紙幣収納部１２は、公知の長財布と同様に、概略四角形状に形成した上記材料を２つ折りにし、その内側に、紙幣を伸ばしたまま収納できる紙幣収納用ポケット１２′を設けた構成をしている。紙幣収納部１２は、図示はしないが、カード入れ、小銭入れなどを更に

有するものとしても良い。また、紙幣収納部１２は、開口側の端部１２″に図示省略のファスナーや留め金等を設けても良い。

【００１５】

小物収納部１３は、小銭入れ、カードケース、キーホルダー、携帯用端末機入れ、煙草入れ、携帯灰皿、薬入れ、印鑑入れ等とすることができる。小物収納部１３は、本例では、紙幣収納部１２の長手方向において紙幣収納部１２の半分程度の寸法を有している。この小物収納部１３は、平面視において概略長方形をした紙幣収納部１２の一方の外面に固定されている。小物収納部１３の固定手段としては、縫い付け、接着などを用いることができる。

【００１６】

以上のように構成された組み付け財布１００は、使用者が、紙幣収納部１２が体側、小物収納部１３が後方側になる向きで、長手方向の小物収納部１３側からズボンの後ろポケットに入れることで、ポケットから落ちにくく、また、ポケットから取り出しやすいものとなっている。つまり、このように組み付け財布１００をズボンの後ろポケットに入れた場合、小物収納部１３があることで、財布１００の重心位置が低くなり、また、小物収納部１３がポケットの内側に引っ掛かるため、財布１００がポケットから容易に落ちるのを防ぐことができる。一方で、紙幣収納部１２の上部がポケットからはみ出るため、組み付け財布１００はポケット内で斜めに傾くこともなく、使用者はポケットからはみ出た紙幣収納部１２の部分（把持部）を掴んで容易に財布１００を取り出すことができる。

【００１７】

なお、ポケットと接触する部分に摩擦抵抗の大きい材料を用いることで、ポケットからの落下を更に防ぐことができる。また、ポケットからはみ出る紙幣収納部１２の把持部に摩擦抵抗の大きい材料を用いることで、組み付け財布１００をつかみやすくすることもできる。摩擦抵抗の大きい材料としては、例えば、ゴム、起毛素材、革の床面（裏面）等がある。

【００１８】

また、組み付け財布１００は、紙幣を伸ばしたまま収納できる紙幣収納部１２を備えるため、収納した紙幣が折れ曲がることもない。加えて、組み付け財布１００は、紙幣収納部１２が紙幣を伸ばしたまま入れるだけの長さを有しているため、深さのある上着の内ポケットに入れても容易に取り出すことができる。

【００１９】

以上の第１実施形態において、組み付け財布１００は、図１に示すように、平面視が概略長方形をなす紙幣収納部１２すなわち長財布に、小物収納部１３すなわち小物入れを固定する態様となっているが、本発明の組み付け財布は、これに限定されず、図示は省略するが、平面視が概略正方形をなす財布、例えば２つ折り財布や、複数に折り畳める財布（ボックス型財布）、硬貨のみを入れる財布、その他適宜構成の財布に、小物入れを固定する態様、あるいは小物入れ１３を複数、適宜位置に固定する態様をも包含することは勿論である。

なお、紙幣の折れ曲がりを嫌う場合には、図１に示すように、長財布をメインにし、これに小物入れ１３を固定する態様が適しており、長財布ではポケットやバッグに入りにくく、携帯に不都合を来すような場合には、図示省略の平面視が概略正方形の財布をメインにして、これに小物入れを固定する態様が適している。

【００２０】

また、上記第１実施形態において、図２（Ａ）に示すように、紙幣収納部１２とは反対側の小物収納部１３の部分に、紙幣収納部１２の長手方向の端部から更に同方向の外側に延ばした延在部１３′を設け、図２（Ｂ）に示すように、紙幣収納部１２の長手方向の端部から紙幣収納部１２の内側へ巻き込む構成としてもよい。この場合、上記延在部１３′に接する小物収納部１３側の紙幣収納部１２の内側部分と、この内側部分に接する上記延在部１３′の部分に面ファスナー、ジッパーテープ、スナップボタン、マグネットなどの着脱用部材１３″（図２（Ａ），（Ｂ）では、面ファスナー１３″の例を示している）を

それぞれ設け、この着脱用部材１３″により延在部１３′を紙幣収納部１２の内側へ取り付けて、紙幣収納部１２と小物収納部１３とを固着状態とする（図２（Ｂ）参照）。そして、小物収納部１３を開状態とする際には、この着脱用部材１３″を紙幣収納部１２の内側から外し、延在部１３′を小物収納部１３側に移動させ、図２（Ａ）のような状態とすればよい。

上記延在部１３′は、図示は省略するが、上記第１実施形態に係る小物収納部１３をボックス型財布とした場合、その蓋部分に設けるなど、小物収納部１３を他の構成とした場合にも適用することができる。

上記延在部１３′と小物収納部１３とは一体の材料から形成してもよい。

以上のように構成することで、組み付け財布１００をポケットから取り出す際に小物収納部１３が開いてしまうのを防ぐことができる。

なお、上記延在部１３′と紙幣収納部１２の内側に取り付ける着脱用部材１３″を面ファスナーとすることで、小物収納部１３の容量を大きくすることができ、また、小物収納部１３の容量を容易に調整することができるようになる。

【００２１】

（第２実施形態）

次に、本発明の第２実施形態について、図３を参照しながら説明する。図３は本第２実施形態に係る組み付け財布２００の斜視図である。

【００２２】

本第２実施形態に係る組み付け財布２００は、平面視において概略長方形をした長財布２２と、長財布２２の外側に着脱自在に取り付けられた小物入れ２３とを有している。

【００２３】

長財布２２は上記第１実施形態における紙幣収納部１２に対応し、小物入れ２３は上記第１実施形態における小物収納部１３に対応する。本第２実施形態に係る組み付け財布２００は、長財布２２に小物入れ２３が固定されておらず着脱自在に取り付けられている点において上記第１実施形態の組み付け財布１００とは異なり、それ以外の点においては上記第１実施形態と同様である。したがって、以下の第２実施形態の説明においては、上記第１実施形態と重複する説明は省略し、長財布２２への小物入れ２３の着脱自在の取り付け方法について説明する。

【００２４】

平面視において概略長方形をした長財布２２の一方の外面には第１の着脱用部材２４が固定されている。また、着脱用部材２４に対応する小物入れ２３の部分には第２の着脱用部材２５が固定されている。

第１、第２の着脱用部材２４、２５としては、面ファスナー、ジッパーテープ、スナップボタン、マグネットなどを用いることができる。また、第１、第２の着脱用部材２４、２５の代わりに、長財布２２に、小物入れ２３を収納するポケットや、小物入れ２３を締付けて固定するベルト等の着脱用部材を設けても良い。さらに、第１、第２の着脱用部材２４、２５の代わりに、小物入れ２３に、長財布２２に取り付けるためのポケットやベルト（図示省略）等の着脱用部材を設けても良い。

小物入れ２３は、１つに限られず、複数取り付けるものとしても良い。長財布２２に小物入れ２３を取り付けたときの外観は、図１に示す上記第１実施形態に係る組み付け財布１００と同様である。

【００２５】

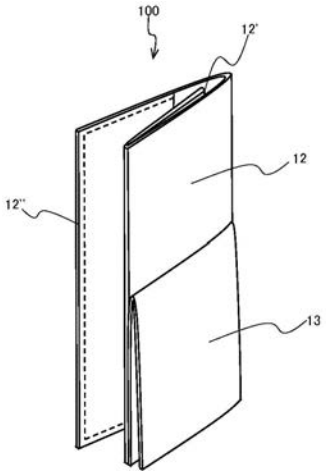
以上の構成により、本第２実施形態に係る組み付け財布２００によれば、上記第１実施形態に係る組み付け財布１００と同様の効果を得ることができる。

また、長財布２２に取り付ける小物入れ２３は、使用者が前記した小銭入れ、カードケース、キーホルダー、携帯用端末機入れ等から適宜選択して長財布２２に組み付けることができ、使用者の利便性を更に高めることができる。

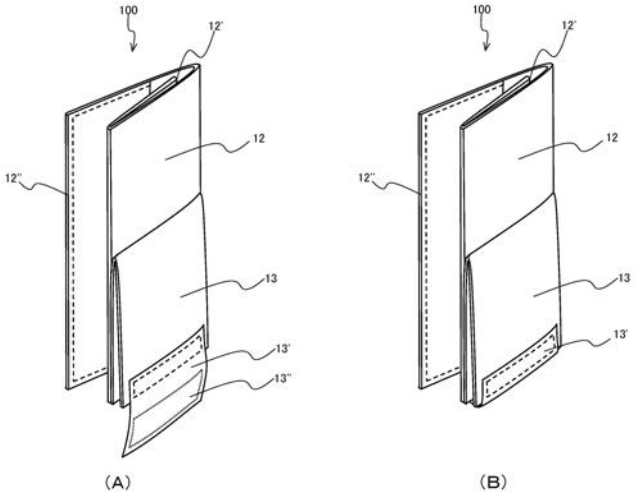
加えて、本第２実施形態に係る組み付け財布２００によれば、長財布２２と小物入れ２３をそれぞれ単独で使用することもできる。

【００２６】
本第２実施形態においても、組み付け財布２００は、図１に示すように、平面視が概略長方形をなす紙幣収納部２２すなわち長財布に、小物入れ２３を着脱自在に取り付ける態様となっているが、本発明の組み付け財布は、これに限定されず、上記の第１実施形態と同様、図示は省略するが、平面視が概略正方形をなす財布、例えば２つ折り財布や、複数に折り畳める財布、硬貨のみを入れる財布、その他適宜構成の財布に、小物入れを着脱自在に取り付ける態様、あるいは小物入れ１３を複数、適宜位置に着脱自在に取り付ける態様をも包含することは勿論である。
また、紙幣の折れ曲がりや携帯の都合等を考慮して、メインの財布に、平面視が概略長方形をなすものか、概略正方形をなすものを選定すればよい。
【００２７】
また、上記第２実施形態においても、図４に示すように、上記第１実施形態の場合と同様、長財布２２とは反対側の小物入れ２３の部分に、長財布２２の長手方向の端部から更に同方向の外側に延ばした延在部２３′を設け、長財布２２の長手方向の端部から長財布２２の内側へ巻き込む構成とし、上記延在部２３′に接する小物入れ２３側の長財布２２の内側部分（図示省略）と、この内側部分に接する上記延在部２３′の部分に面ファスナー、ジッパーテープ、スナップボタン、マグネットなどの着脱用部材２３″（図４では、面ファスナー２３″の例を示している）をそれぞれ設け、この着脱用部材２３″により延在部２３′を長財布２２の内側へ取り付けて、長財布２２と小物入れ２３とを固着状態（図２（Ｂ）と同様の状態）とする。そして、小物入れ２３を開状態とする際には、この着脱用部材２３″を長財布２２の内側から外し、延在部２３′を小物入れ２３側に移動させればよい。
上記延在部２３′は、上記第２実施形態に係る小物入れ２３をボックス型財布（図示省略）とした場合、その蓋部分に設けるなど、小物入れ２３を他の構成とした場合にも適用することができる。
上記延在部２３′と小物入れ２３とは一体の材料から形成してもよい。
以上のように構成することで、組み付け財布２００をポケットから取り出す際に小物入れ２３が開いてしまうのを防ぐことができる。
なお、上記延在部と長財布２２の内側に取り付ける着脱用部材を面ファスナーとすることで、小物入れ２３の容量を大きくすることができ、また、小物入れ２３の容量を容易に調整することができるようになる。
【符号の説明】
【００２８】
１２　紙幣収納部
１３　小物収納部
２２　長財布
２３　小物入れ
２４　第１の着脱用部材
２５　第２の着脱用部材
１００　財布
２００　組み付け財布

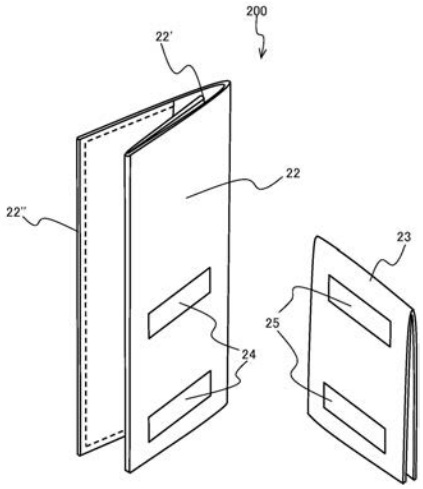
【図１】


100
12'
12
12''
13

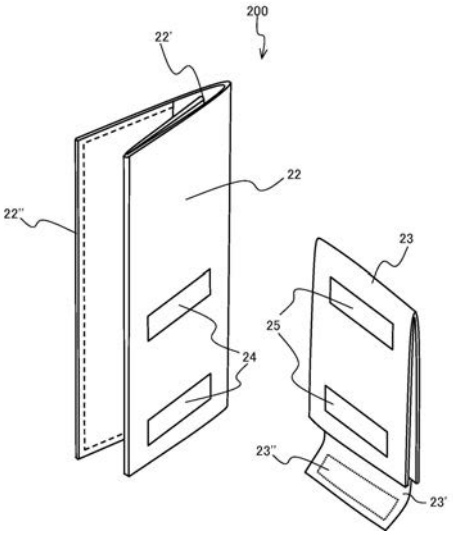
【図２】


100
12'
12
12''
13
13'
13''
(A)
100
12'
12
12''
13
13'
(B)

【図３】


200
22'
22
22''
23
25
24

【図４】


200
22'
22
22''
23
25
24
23''
23'